

CIR Insights 14

[東北大学生・教職員のための教育データレポート]

2021年冬号 全学教育における授業アンケートの回答と成績の関係

全学教育の授業アンケートのオンライン化以降、回答率は低く推移しています。そうすると、気になるのが授業アンケートの回答と成績の関係です。アンケート回答学生の成績分布をみると、成績が良い学生ほどよく回答しています。次に、回答学生が良かった点・改善点それぞれの自由記述に回答した割合を確認すると、良かった点は成績が良い学生ほどよく言及する傾向がある一方、改善点は成績にかかわらず2割前後の学生が言及しています。さらに、改善点に関する自由記述をみると、例えば「オンライン授業について」は成績にかかわらず言及があるのに対し、成績ごとに特徴的な記述も認められます。

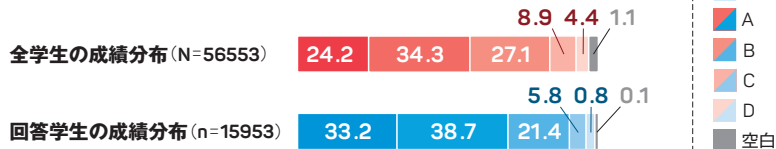
CIRとは？

教育評価分析センターのこと。東北大学における教育・学習活動の体系的なデータ収集・分析を行い、大学の教育マネジメントを支援する組織です。

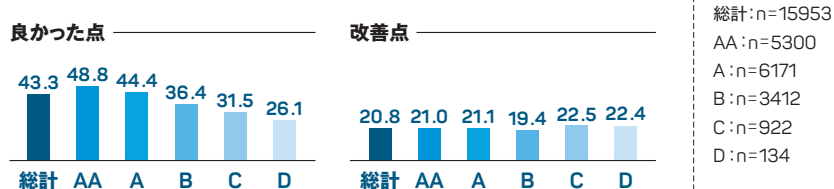
東北大学
高度教養教育・学生支援機構
教育評価分析センター

〒980-8576 仙台市青葉区川内41
Tel: 022-795-4931
Fax: 022-795-4749
E-mail: cir@ihe.tohoku.ac.jp
http://www.cir.ihe.tohoku.ac.jp

全学生とアンケート回答学生の成績分布の比較 (%)



アンケート回答学生のうち自由記述回答率の比較 [良かった点・改善点] (%)



改善点に関する自由記述の特徴 (言及率ランキング)

凡例

1 (自由記述のトピック名)

自由記述の内容

1 (自由記述のトピック名)

各成績グループで特有な自由記述の内容

代表的なコメント

自由記述のトピック類型

- オンライン授業について
- 授業の形式・ペースについて
- 難易度について
- 課題などについて
- 授業の資料や情報提示について
- 授業の内容について

*自由記述の分類はトピックモデル(自動分類機能)を用いて行っています。

AA	A	B	C	D
1 動画について	1 主にオンライン授業の形態や環境について	1 主にオンライン授業の形態や環境について	1 動画について	1 主にオンライン授業の形態や環境について
2 授業形式や時期について (オンライン—対面、前期—後期など)	•雑音が多く聞き取れない場面があった •板書がホワイトボードだと見えにくかった	2 動画について	2 授業進行のペースについて (速いが多い)	2 動画について
3 グループワークについて	2 動画について	3 授業進行のペースについて (速いが多い)	3 主にオンライン授業の形態や環境について	3 授業形式や時期について (オンライン—対面、前期—後期など)
•グループ活動が単調に感じられた •学生同士の話し合いの時間が欲しかった	•視聴期間に猶予があると良かった •各授業で視聴方法を統一して欲しかった	4 授業形式や時期について (オンライン—対面、前期—後期など)	4 課題について (出し方や指示など)	4 授業進行のペースについて (速いが多い)
4 主にオンライン授業の形態や環境について	3 授業形式や時期について (オンライン—対面、前期—後期など)	•対面・オンラインのバランスを取ってほしい •発言や発表の機会がより多いと良かった	5 声の聴きとりづらさについて	5 プリントや資料について
5 課題提出や、課題等に関する連絡について	4 課題提出や、課題等に関する連絡について	5 課題提出や、課題等に関する連絡について	6 課題提出や、課題等に関する連絡について	•練習問題をもっと増やして欲しかった •外国語のみの資料だと理解が難しかった
6 声の聴きとりづらさについて	5 声の聴きとりづらさについて	6 難易度について	7 難易度について	6 課題について (出し方や指示など)
7 難易度について	6 授業進行のペースについて (速いが多い)	•授業・課題難易度が高くていけないかった •問題の解き方の説明が欲しかった	8 演習の問題について	•試験前にまともな準備が出来て欲しかった •レポート課題でも成績を評価して欲しかった
8 評価方法について	7 難易度について	7 課題などが多い	•先生からの話をより多く聞きたかった •演習の時間を多く取って欲しかった	7 声の聴きとりづらさについて
•授業評価の基準が分からなかった •記述問題の採点の内訳が知りたかった	8 課題などが多い	8 課題について (出し方や指示など)	9 板書とノートテイクについて	8 課題提出や、課題等に関する連絡について
9 課題について (出し方や指示など)	9 時間の設定や長短について	9 声の聴きとりづらさについて	•板書の字が読みづらかった •スライドの授業ならオンデマンドで十分	9 難易度について
10 時間の設定や長短について	•グループ学習の配分を増やして欲しかった •ゲーム形式の授業を増やして欲しかった	10 ほかの授業との比較や関わり	10 予習・復習・授業の準備などについて	10 演習の問題について
•授業内容により関係のある内容を掘り下げたかった	10 グループワークについて	•選択教科同士で、授業の難易度や課題の量を統一してもらいたかった	•理解度をより深めるため、講義資料を事前に公開してもらいたかった	•授業や参考書の内容と、テストで出される問題の関連度を高めて欲しかった



CIRと コラボレーション しませんか？

CIRでは全学的な教育に関する調査分析の他に、学内各所の委員会や部局との連携・協力による改善支援を行っています。

これまでCIRが蓄積してきた様々な教育関連データを用い、教育改善に向けた課題抽出、解決のための情報分析をお手伝いします。

ご興味をお持ちの部局、解決したい課題をお持ちの方がおられればお気軽にお問い合わせください。

例えば、こんなことができます【これまでの実績】

➔ 東北大学学務審議会 / 教育情報・評価改善委員会

CIRは、東北大学学務審議会及び教育情報・評価改善委員会からの依頼に基づき、各々年に二回発行されている報告書「全学教育科目成績分布図」と「学生による授業アンケート実施報告書」の冒頭において、各期の教育活動を振り返るため、全体的な集計結果を報告しています。

➔ 物理における「力学概念テスト(FCI)」の活用可能性検証

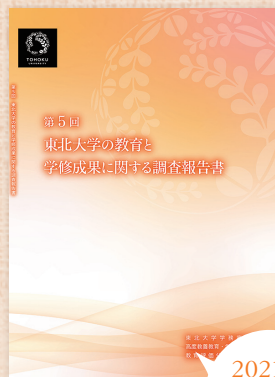
東北大学・全学教育の「物理」(力学)の一部クラスでは、学修成果を検証すべく、米国で開発された「力学概念テスト(Force Concept Inventory: FCI)」を試験的に導入しています。受講生のFCI得点と入学時の共通テスト(物理)得点との比較調査に基づくFCIの活用可能性検証に際して、CIRからデータ提供を行いました。

CIRが実施する調査のご紹介

CIRでは、過去に実施した調査報告書を配付しております。

入手をご希望の方は下記のお問い合わせ先まで、ご連絡ください。

【お問い合わせ】教育評価分析センター →→→ cir@ihe.tohoku.ac.jp



2021年
3月
実施

東北大学の 教育と学修成果に関する調査報告書

2012年度から2年に1度実施されている「東北大学の教育と学修成果に関する調査」の第5回報告書が発刊されました。

本報告書では、2020年度に本学を卒業・修了した学生たちが東北大学での経験を振り返った結果をまとめています。これまでの調査結果との経年比較も参考にしつつ、東北大学生の学修成果の現状を正確に把握し、将来を展望するための一素材としてご活用いただける内容となっています。

【目次】

第1部 調査結果全体に関する概要

調査概要と経年比較の結果について
「第7回教育調査研究会」スライド資料

第2部 各部局の結果に対する所見

第3部 資料(基礎集計表・自由記述・調査票)

【既刊】

- 第1回 東北大学の教育と学修成果に関する調査報告書 (2013年3月実施)
- 第2回 東北大学の教育と学修成果に関する調査報告書 (2015年3月実施)
- 第3回 東北大学の教育と学修成果に関する調査報告書 (2017年3月実施)
- 第4回 東北大学の教育と学修成果に関する調査報告書 (2019年3月実施)



2020年
1月
実施

東北大学教員の 教育活動に関する調査報告書

東北大学の教育改善を図る取組の一環として、2015年度の調査に続き今回は2回目の実施となりました。2022年に向けた新たな全学教育カリキュラム改革の実装段階に入るにあたって、政策的要請やカリキュラム改革にも資するものとなるよう、本学教員がいかなる認識や方法の下で教育活動を展開し、どのような課題を抱えているかをデータで明らかにすることを試みました。特に「単位の実質化」、「高年次教養教育」、「 Semester制・クォーター制」について詳細に報告しています。

【目次】

第1部 調査結果全体に関する分析

1. 調査概要と回答傾向
2. 単位の実質化に向けた諸課題
2019年度改定の関連文書を念頭に
3. 全学教育改革について
学期制と高年次教養教育

第2部 資料(部局別集計表、自由記述、調査票)

【既刊】

- 第1回東北大学教員の教育活動に関する調査報告書
速報版: 2016年3月刊行
通常版: 2016年11月刊行